

米どころ、開成。

あじさいと田園風景。

「開成町といえばこれ！」と、町の北部に広がるこの景色を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。しかし、農家の減少や後継者不足により、この開成町らしい風景が少しずつ姿を消しています。

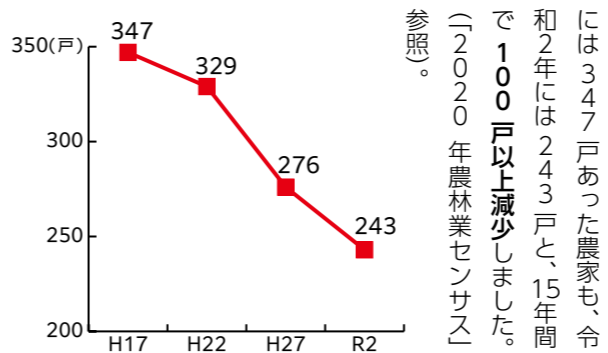
問 産業振興課 ☎84-0317

町を代表する風景

開成町は、北部・中部・南部と、地域ごとに計画的な街づくりを進めています。特に、北部地域では、農業の活性化や田園風景の保全・再生に重点を置いており、田を中心とした農地が多くあります。

また、北部地域以外にも、町なかのいろいろな所に田が点在し、開成町にある田は、町の総面積の約25%に相当します。

しかし、町内の農業従事者は年々減少しています。平成17年



町では、農業委員会と連携して田を大切に維持していくため、農地を借りたい人や貸したい人への支援等の取組をしています。

受けつぎ、受けつぎ

町のあちろちろに、きれいな水が流れていて、優良な農地があり、おいしいお米がとれる。田の間には鮮やかなあじさいが咲き誇り、仰ぎ見れば富士山。この土地に住んでいる私たちの

目には、見慣れた風景として映るかもしれません。しかし、この風景は、決して当たり前のもではなく、先人から受けつがれてきた地域の財産です。

町の米作りに関心をもち、町産のお米を食べることは、この「財産＝田園風景」を未来に伝えるために大切です。

今回の特集では、町の米作りを担う農家さんに、米作りにかける想いを伺いました。

〇お米ができるまで

種まき・育苗 (4月下旬ごろ)

米の種(種もみ)を育苗箱にまき、芽が出て大きくなるまで育てる。

田おこし・代かき

冬に眠っていた田を耕し、肥料を混ぜて米作りに適した田を作る。田おこし後、水を張り、土と水を混ぜ合わせて平らにならす。

田植え (5月中旬～)

苗が12センチほどになり、葉が2枚出たら、いざ、田植え。現在は田植え機を使って作業することが多いが、手で植えることも。田の土は水を多く含んでいて、田の中を歩くのは一苦労だ。



開成町あじさいまつり (6月)

あじさいと青々とした田の景色を楽しめる。



水管理

天気や気温に合わせて、田に入れる水の量を調整する。毎日の水の管理は、欠かすことのできない重要な作業。

草取り

暑い季節になると稲とともに生長する草。炎天下での草取りは大変だ。

中干し

稲の生育を健全にし、実りをよくするために、水を抜いて田を乾かす。夏ごろに田から水が無くなる光景、見たことはありませんか？

稲刈り (9月～)

稲穂が実り、黄金色に田が輝きだすと、いよいよ稲刈り。稲を刈り取り、稲を干して乾燥させる。乾燥させた稲からもみを取る(脱穀)。コンバインの場合は、刈り取りながら脱穀をする。



食卓へ

もみをもみ殻と玄米に分け、さらに、玄米を精米すると私たちが見慣れたつやつやした「白米」の姿に。

